

ヒグマ対策 市民へ広く周知を

10月12日 決算特別委員会（消防、環境局） 千葉議員

千葉議員はヒグマ対策について「ヒグマに対する市民の関心度と普及啓発」「進入抑制柵緑地管理のボランティア活動」の2点について質問しました。

市が行った2022年6月の市民意識調査では、ヒグマに対する意識と札幌市の対策について聞いており、ヒグマの出没についての設問では、関心がある人は91.8%、現地調査、電気柵普及事業、河川敷の草刈り、クマ講習会やフォーラムについては知らない、どちらとも言えないという回答が多く、ヒグマに高い関心を持つ市民が多い一方で、ヒグマ対策などが知られていないとの課題が浮き彫りになり、この受け止めはどうかと質問。これに対して市の担当者は「市民に広く知っていただくことは重要。今年度から新たに教育委員会を通じて市立の全小・中学校に案内を行い、実施地区の拡大を図っている。また、子ども向けの講座だけではなく、保護者向けの出前講座、親子で一緒に学べる資料の作成、配布などに取り組みたい」と前向きな答弁をしました。

また、町内会やNPO、学生などのボランティア団体と、市が連携して実施している進入抑制策としての草刈りは緩衝帯をつくるなど一定の効果が期待され、毎年実施する地域も増えていることから、緑地管理のボランティア活動を持続可能な取り組みとしていくための考えについて質問をしたところ、「持続可能な取り組みとしていくためには、行政も必要な支援を行っていくことが重要であると考えており、ご提案いただいた内容を含め、引き続き検討したい」と答弁し、ヒグマ対策が前進方向が示されました。

公共交通としての役割 果たせるのか

10月12日 決算特別委員会（まちづくり政策） 佐々木市議

佐々木議員は手稲区で実施されるデマンド交通実証実験について質問しました。

現在JRバス北海道が運行し、手稲区を走る富岡高台線は2000年11月から運行を開始して約22年になります。地域住民がバス事業者と検討を重ね、地域住民からシャトルバスと呼ばれ、愛着のあるバスとして利用されてきた背景があり、廃止の発表に驚きの声が上がっています。同市議は「なぜ、デマンド交通を代替交通として導入したのか」と質問。当局は「地形的要因や利用状況を鑑み、バス路線の廃止による周辺住民への影響が大きいことが懸念されるため、代替交通の必要性について検証した。デマンド交通は、運行時間内であれば、希望する時間に利用可能で、事前に設定された乗降ポイント間を自由に移動できるため、利便性が向上する」と利便性が向上することを答弁の中で強調しました。

しかし、伴って料金が上がるため、利用控えることが懸念されています。事前の予約が必要なデマンド交通の利用について当局は「会員登録する際に、年齢や障害の有無を登録していただくことで、乗車時に運転手が手元の予約管理システムを用いて、年齢や障害の有無に応じた運賃区分を確認できるようになっている」としていますが、他区から訪れた人が利用することや、高齢者、障がい者に会員登録や予約が出来るのかなど問題は山積しています。佐々木市議は、実験の中で利用者の声をよく聞いて、意見を取り入れていくことが今後の利用を広げることに繋がると要望しました。